

日台水産研究シンポジウム  
～黒潮源流域における水産業及び水産研究の現状～  
開催について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-06-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 與世田, 兼三 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2008569">https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2008569</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



ちゅら海便り

## — 日台水産研究シンポジウム

### ～黒潮源流域における水産業及び水産研究の現状～

## の開催について —

石垣支所長 與世田兼三

石垣島周辺の海域は黒潮の源流域となっており、我が国における有用な水産資源であるマグロ・カツオ類などの産卵場であるとともに、マチ類などの棲息域でもあることから、(独)水産総合研究センターでは水産資源の持続的な利活用及び水産業の健全な発展に向けた研究を推進しています。しかし、これらの資源は我が国だけではなく台湾などの諸外国も利用しており、水産業の健全な発展のためには、国際的な相互理解が求められます。特に、台湾に最も近い与那国近海ではマチ類やマグロ類などの漁場が重なることから、何度か台湾漁船が水産庁の取締船に拿捕されるなどの国際的な問題が生じている海域です。

石垣市は平成21年4月15日に竹富町と与那国町の3域連携で台湾花蓮市との国境交流推進共同宣言に調印しており、台湾東部と八重山の3地域で観光や文化、経済の交流を推進することとしており、手始めに、修学旅行やスポーツの交流、産業視察ツアーなどに努めることを盛り込んでいます。また同年12月25日には、八重山3市町の他に宮古2市村(宮古島市、多良間村)の5自治体が連携し、美(か)ぎ島・美(かい)しゃ市町村会を発足し、離島振興という位置付けから脱却し、アジアから世界に通じる交流圏を目指しています。このような背景を踏まえて、沖縄地域と台湾との水産業及び水産研究に関する交流を図るため、平成22年1月

14日に(独)水産総合研究センター西海区水産研究所、沖縄県、石垣市、竹富町及び与那国町との共催で沖縄県八重山合同庁舎2階大会議室にて上記シンポジウムを開催いたしました。今回のシンポジウムには、台湾行政院農業委員会漁業署の沙署長、水産総合研究センターの中前理事長ほか、水産関係者、一般の参加者などの101名が参加しました。

シンポジウムでは、台湾側からは4つの講演が、日本側からは沖縄県、琉球大学、水産総合研究センターによる7つの講演がありました。講演では、台湾の水産業と海藻養殖の現状、沖縄県の水産業と養殖業の現状が紹介されました。また、台湾でのアジサバ漁業経営の現況と資源変動解析、黒潮源流域の海洋環境などについての調査研究も紹介されました。総合討論では、今後の日台間での研究交流について意見交換が行われ、資源管理分野での交流の深化、ハタ類や海藻類などの養殖に関する研究成果の交流、地場産業の育成につなげることの重要性などに関しての活発な議論がありました。

シンポジウムの前夜は、石垣市・沖縄県主催、終了後は水研センター主催によるレセプションが開催されました。さらに、シンポジウムの翌日は八重山漁協や研究機関などの視察もあり、盛況のうちに閉幕し、次年度の第2回日台水産研究シンポジウムは、台湾花蓮市での開催が予定されています。



日本と台湾の講演者と主な参加者